

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第42期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 株式会社AOKIホールディングス

【英訳名】 AOKI Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 青木 彰 宏

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24番1号

【電話番号】 横浜 045(941)1888(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員IR・広報室長 柳 智 梶

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24番1号

【電話番号】 横浜 045(941)1888(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員IR・広報室長 柳 智 梶

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第41期 第2四半期 連結累計期間	第42期 第2四半期 連結累計期間	第41期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(百万円)	82,656	85,675	194,046
経常利益	(百万円)	508	959	13,895
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	152	163	7,355
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	132	217	7,400
純資産額	(百万円)	139,526	141,687	143,906
総資産額	(百万円)	221,473	227,993	234,681
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	1.72	1.87	83.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	63.0	62.1	61.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,375	5,897	18,628
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,424	3,674	10,582
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,074	3,395	6,998
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	22,436	27,436	28,608

回次		第41期 第2四半期 連結会計期間	第42期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	8.12	1.87

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境が堅調に推移し、緩やかな回復基調が継続しております。一方、個人消費は海外情勢の不確実性や景気の先行き不透明感などから力強さに欠ける状況となっております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は856億75百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は13億59百万円（前年同期比105.8%増）、経常利益は9億59百万円（前年同期比88.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億63百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

（ファッション事業）

AOKIでは、メンズ、レディスとも「本当に洗えるスーツ」等の機能性スーツが好調に推移いたしました。また、改装は一部店舗で工事終了日が下期に変更になったものの約60店舗が完了し、店舗環境面の整備や改善を図りました。店舗面では、大きいサイズの専門店「Size MAX（サイズマックス）」の単独店2店舗を含む8店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため移転等を含め8店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は573店舗（前期末573店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、自由に着回しが楽しめる「THE 3rd SUITS（サードスーツ）」でビジネス・ビジカジスタイルを提案するとともに、セレモニー用のフォーマルと関連するアイテムを拡充し提案を強化いたしました。店舗面では、2店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため5店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は142店舗（前期末145店舗）となりました。

これらの結果、売上高は462億98百万円（前年同期比1.1%増）、営業損失は前期に実施した大規模改装に伴う費用が減少したこと等により10億57百万円（前年同期は18億16百万円の営業損失）となりました。

（アニヴェルセル・ブライダル事業）

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、施設ごとの強みやコンセプトを明確にした販促・PRを実施するとともに、多様化するウエディングのニーズやトレンドにお応えするため、リニューアルを行い婚礼から広がる商品・サービスの強化施策を実施いたしました。また、引き続き業務効率化の推進により、売上原価や販管費の削減を図りました。

これらの結果、売上高は131億87百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は9億47百万円（前年同期比14.0%増）となりました。

（カラオケルーム運営事業）

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、人気キャラクターとのコラボレーションキャンペーンを推進するとともに、カラオケ最新機種を導入やコンセプトルームの拡充等19店舗のリニューアルを実施し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、4店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため6店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は183店舗（前期末185店舗）となりました。

これらの結果、売上高は89億39百万円（前年同期比0.9%増）、営業損失は人件費等の売上原価が増加し26百万円（前年同期は38百万円の営業利益）となりました。

(複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、最新の高性能パソコンへの入れ替え及び高速Wi-Fiの全店導入により利便性の向上を図るとともに、女性専用エリアの拡充等18店舗のリニューアルを実施し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、愛媛県への初出店を含め19店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため3店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は362店舗（前期末346店舗）となりました。

これらの結果、売上高は172億73百万円（前年同期比14.4%増）、営業利益は減価償却費や人件費等の売上原価が増加し10億99百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ66億87百万円減少し、2,279億93百万円となりました。

流動資産は、売掛金が季節的要因等により64億4百万円及び現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により11億71百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ73億87百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店及びリニューアル等により16億33百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ7億円増加いたしました。

流動負債は、短期借入金が40億円増加した一方、一年内返済予定の長期借入金が35億円及び買掛金が季節的要因等により46億72百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ49億54百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により3億25百万円減少した一方、リース債務等のその他が6億63百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ4億86百万円増加いたしました。

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当の結果17億56百万円減少し、自己株式が取得により5億17百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ22億19百万円減少しております。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）は、前連結会計年度末と比べ11億71百万円減少し、274億36百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、58億97百万円（前年同期と比べ35億22百万円増加）となりました。これは主に、仕入債務の減少額が46億72百万円となった一方、減価償却費が41億95百万円及び売上債権の減少額が64億4百万円となったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、36億74百万円（前年同期と比べ12億50百万円増加）となりました。これは主に、新規出店及びリニューアル等に伴う有形固定資産の取得による支出が36億37百万円となったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、33億95百万円（前年同期と比べ16億79百万円減少）となりました。これは主に、短期借入金が40億円増加した一方、長期借入金の約定返済による支出が38億25百万円、配当金の支払額が19億20百万円及びリース債務の返済による支出が11億32百万円となったことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	133,679,900
計	133,679,900

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	90,649,504	90,649,504	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	90,649,504	90,649,504		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日		90,649,504		23,282		26,100

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アニヴェルセル HOLDINGS	東京都港区北青山3丁目5番25号	34,715	38.29
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,212	3.54
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,916	3.21
青木 拓 憲	東京都渋谷区	2,560	2.82
青木 實 久	東京都渋谷区	2,560	2.82
青木 征 允	東京都渋谷区	2,560	2.82
青木 彰 宏	東京都渋谷区	2,560	2.82
AOKIホールディングス 取引先持株会	神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24番1号	2,210	2.43
AOKIホールディングス 従業員持株会	神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24番1号	1,465	1.61
青木情報開発株式会社	神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央24番1号	1,243	1.37
計		56,004	61.78

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式3,768千株(4.15%)があります。

2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の持株数は、すべて信託業務に係るものです。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,768,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 86,821,700	868,217	
単元未満株式	普通株式 59,604		
発行済株式総数	90,649,504		
総株主の議決権		868,217	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株(議決権4個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が12株含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AOKI ホールディングス	神奈川県横浜市都筑区茅 ヶ崎中央24番1号	3,768,200		3,768,200	4.15
計		3,867,200		3,768,200	4.15

2 【役員 の 状 況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,608	27,436
売掛金	10,508	4,103
たな卸資産	1 26,905	1 27,071
その他	8,974	8,994
貸倒引当金	32	30
流動資産合計	74,963	67,575
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	61,568	62,148
土地	36,953	36,952
その他(純額)	13,164	14,218
有形固定資産合計	111,686	113,320
無形固定資産		
投資その他の資産	6,301	5,901
差入保証金	8,259	8,209
敷金	21,066	20,890
その他	12,444	12,136
貸倒引当金	40	40
投資その他の資産合計	41,730	41,196
固定資産合計	159,718	160,418
資産合計	234,681	227,993
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,159	14,486
短期借入金	-	4,000
1年内返済予定の長期借入金	4,150	650
未払法人税等	1,603	760
賞与引当金	1,647	1,898
役員賞与引当金	89	56
その他	12,546	12,390
流動負債合計	39,197	34,242
固定負債		
長期借入金	37,125	36,800
役員退職慰労引当金	1,949	1,998
ポイント引当金	1,069	982
退職給付に係る負債	976	1,029
資産除去債務	5,513	5,645
その他	4,943	5,607
固定負債合計	51,577	52,063
負債合計	90,774	86,306

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,833	27,833
利益剰余金	96,753	94,996
自己株式	4,325	4,842
株主資本合計	143,544	141,270
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	576	578
退職給付に係る調整累計額	302	249
その他の包括利益累計額合計	274	328
新株予約権	87	87
純資産合計	143,906	141,687
負債純資産合計	234,681	227,993

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1 82,656	1 85,675
売上原価	48,313	50,669
売上総利益	34,342	35,006
販売費及び一般管理費	2 33,681	2 33,646
営業利益	660	1,359
営業外収益		
受取利息	49	46
受取配当金	71	39
不動産賃貸料	305	283
その他	150	74
営業外収益合計	576	444
営業外費用		
支払利息	158	173
不動産賃貸費用	256	237
その他	314	432
営業外費用合計	728	844
経常利益	508	959
特別利益		
投資有価証券売却益	542	-
特別利益合計	542	-
特別損失		
減損損失	391	337
固定資産売却損	-	38
災害による損失	102	-
特別損失合計	494	376
税金等調整前四半期純利益	556	582
法人税、住民税及び事業税	1,097	725
法人税等調整額	693	305
法人税等合計	403	419
四半期純利益	152	163
親会社株主に帰属する四半期純利益	152	163

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	152	163
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79	2
退職給付に係る調整額	58	52
その他の包括利益合計	20	54
四半期包括利益	132	217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	132	217
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	556	582
減価償却費	3,898	4,195
減損損失	391	337
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	37	49
ポイント引当金の増減額(は減少)	68	86
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	112	132
受取利息及び受取配当金	120	85
支払利息	158	173
固定資産売却損益(は益)	-	38
投資有価証券売却損益(は益)	542	-
売上債権の増減額(は増加)	6,179	6,404
たな卸資産の増減額(は増加)	812	165
仕入債務の増減額(は減少)	3,899	4,672
未払消費税等の増減額(は減少)	646	73
その他	337	590
小計	4,906	7,568
利息及び配当金の受取額	97	65
利息の支払額	159	172
法人税等の支払額	3,706	2,459
法人税等の還付額	1,236	895
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,375	5,897
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,907	3,637
無形固定資産の取得による支出	212	202
敷金及び保証金の差入による支出	865	266
投資有価証券の売却による収入	2,068	-
信託受益権の純増減額(は増加)	258	716
その他	234	282
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,424	3,674
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	4,000
長期借入金の返済による支出	1,025	3,825
リース債務の返済による支出	894	1,132
自己株式の取得による支出	1,848	517
配当金の支払額	1,795	1,920
その他	490	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,074	3,395
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,123	1,171
現金及び現金同等物の期首残高	27,560	28,608
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 22,436	1 27,436

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
商品	26,110百万円	26,295百万円
原材料及び貯蔵品	794 "	775 "
計	26,905百万円	27,071百万円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
AOKI HOLDINGS N.Y. INC.	323百万円	299百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

当社グループ(特にファッション事業)は、事業の性質上業績に季節的変動があり、通常、第2四半期連結累計期間の売上高は第3四半期以降の売上高と比べ減少し、営業利益は著しく減少する傾向にあります。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
広告宣伝費	4,795百万円	4,668百万円
給料及び賞与	8,573 "	8,662 "
賞与引当金繰入額	1,417 "	1,466 "
役員賞与引当金繰入額	61 "	56 "
退職給付費用	343 "	407 "
役員退職慰労引当金繰入額	68 "	58 "
賃借料	7,630 "	7,620 "
減価償却費	1,580 "	1,719 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金	22,436百万円	27,436百万円
現金及び現金同等物	22,436百万円	27,436百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	1,793	20	平成28年3月31日	平成28年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月10日 取締役会	普通株式	1,848	21	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,632千株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が1,848百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が3,285百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月11日 取締役会	普通株式	1,919	22	平成29年3月31日	平成29年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月9日 取締役会	普通株式	1,911	22	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年2月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式363千株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が516百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が4,842百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	45,810	12,899	8,852	15,094	82,656		82,656
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	8	4		14	14	
計	45,811	12,908	8,856	15,094	82,671	14	82,656
セグメント利益 又は損失()	1,816	831	38	1,274	327	333	660

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額333百万円には、セグメント間取引消去2,177百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,844百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ147百万円、172百万円及び71百万円です。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	46,287	13,177	8,936	17,273	85,675		85,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	10	2		23	23	
計	46,298	13,187	8,939	17,273	85,698	23	85,675
セグメント利益 又は損失()	1,057	947	26	1,099	963	396	1,359

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額396百万円には、セグメント間取引消去2,126百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,730百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ144百万円、10百万円、104百万円及び77百万円です。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円72銭	1円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	152	163
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	152	163
普通株式の期中平均株式数(株)	88,824,724	87,018,467
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの 概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第42期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)中間配当について、平成29年11月9日開催の取締役会において、平成29年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 配当金の総額 | 1,911百万円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 22円00銭 |
| (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成29年12月5日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月10日

株式会社AOKIホールディングス
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 昭夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 天野 祐一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AOKIホールディングスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AOKIホールディングス及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。